

～ 保護者の皆さんからの声 ～

悩み その1

学校給食のおかげで  
食の幅が少し広がってきたが、  
まだまだ偏食です。



悩み その2

学校では食べているようですが、  
家ではなかなか  
食べてくれません。



悩み その3

初めて見る食材や料理への  
警戒心が強いです。  
一口味見をさせてみよう



するが、拒否が  
強くて大変です。

悩み その4

お菓子や特定の食べ物しか  
食べないのですが、どうしたら  
良いでしょうか。



悩み その5

スプーン・フォークの  
持ち方が直りません。  
物によっては、手で食べる  
こともあります。



悩み その6

必ずといっていいほど、  
最後の一口を残します。  
きれいに完食してほしいけど、  
どうしたらよいですか。



うちも同じような  
悩みがある・・・。  
みんなどうしてるんだろう。



## 本校が考える 支援の仕方・子どもたちの行動の捉え方

本校で学んでいる  
子どもたちは  
『ゆっくり時間をかけて  
成長している』という  
特性があります。



「他の人と同じことができるようになってほしい。」「いつになったらできるようになるんだろう。」という気持ちになることが多いと思います。

しかし、子どもたちは少しずつでも、確実に成長する力を持っています。

楽しい食事の時間にするため、焦らずに見守っていただけると幸いです。まずは担任にご相談ください。給食時の目標を立てて、支援方法を考えます。

ご家庭でもできることを、学校でも支援していくことで、経験が積み重なり、できるようになっていくと思います。

「こだわり」にも  
いろいろあり、  
そのお子さんの  
障がいの特性から  
見られる行動の  
一つです。



※障がいの特性の一つとして、味覚・嗅覚・触覚・聴覚・視覚が過敏または鈍麻という特性があります。

□味の好み…薄味、濃い味、甘み、しょっぱさ、など

□唇や口の中の感じ方…固すぎる、柔らかすぎる、ツブツブがイヤ、ねっとりがイヤなど

□食器具の感触…金属の冷たい感じがイヤ、木のザラザラがイヤなど

嫌がる原因は一つではないことが多いので、いろいろと試してみる必要があると思います。

最後の一口は、もしかしたら誰かに食べて欲しくて残しているかもしれませんね。

食事をするために  
必要な力があります。  
その力が身に付いて  
いないと  
難しいことも。

関連する悩み  
その5



スプーン・フォークを持つために、指・手首・腕・肩の運動機能の発達や可動域が必要です。

食事以外の場面で、練習するのも一つの方法です。食事の初めだけスプーンを使用し、後半は手づかみにしてもよいと思います。

また、食べ物を上手に食べるためには、唇がきちんと閉じていること、舌が自在に動かせることなどの力が必要です。

唇や口の中を触られるのが苦手なお子さんも多く、口のまわりをマッサージしてあげることも支援の一つです。

学校の給食の時間は、  
お友達と一緒に食べる  
ことで色々なものを  
食べることが  
できるようです。

関連する悩み  
その1・2



給食では食べられるみたいだけど…という悩みは多いですね。

友達が食べている様子から、「食べてみよう」「真似してみよう」と、『チャレンジすることができる環境にある』というのが、給食の時間でもあります。